

学 校 教 育 目 標	心豊かでたくましく 共に生きる児童の育成
目 指 す 学 校 像	知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童を育成する学校
重 点 目 標	1 児童一人ひとりが充実感、達成感を味わう子ども主体の教育活動の推進 2 社会性、コミュニケーション能力と健やかな身体の育成 3 子ども・家庭・地域とともに歩む学校づくりの推進 4 安全安心で潤いのある教育環境の整備 5 「教え方改革」「働き方改革」による教職員の授業力・指導力向上

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日	
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	- 生涯にわたって学びに向かう力を身に付けることができるように、学びの改革に継続して取り組んでいきたい。 - より自立した学習者を育て、深い学びを実現する学習指導を充実させていく。 - ICT 機器や情報を上手に活用できる力を保護者とも連携しながら、子どもたちに身に付けさせたい。 - 自立を促す指導と併せて、一人ひとりの児童へのフォローアップにも力を入れていく。	・学びの質の向上と学習習慣の定着	・児童の笑顔や成長に向けて「承認」や「問いかけ」、「言語化」を重点に、コーチングの手法について教職員、保護者の共通理解を深めていく。 ・朝のICTタイム等を充実させて、タブレット端末の操作スキルや情報リテラシーの向上に取り組む。	・市学習状況調査における自己肯定感や自信に係る項目の評価向上。 ・学校評価アンケート「タブレットを進んで使うことができる（児童）」の評価向上。				
		・個に応じた指導の充実	・協働的な学びを生かしながら、どの子も伸ばす指導と評価に取り組む。	・個に応じた学習活動や学び合い、多様な学びの場を工夫し、一人ひとりの児童へのフォローアップができているか。				
2	- 本校の児童の素直さや学校全体のアットホームな雰囲気を今後も大事にしていきたい。 - コミュニケーションの基本である「心を潤す4つの言葉」や「あいさつ」については、全教職員の共通理解のもと、家庭と連携して推進していく。 - 暑さ指数や雨風等に留意して安全面に配慮しながらも、運動や外遊びを推進していく。 - 体力向上等については、学校だけでなく家庭や地域とも連携していく必要がある。	・社会性やコミュニケーション能力の育成	・集会活動等では、児童の自主性や主体性を育てる取組を推進していく。 ・縦割り交流、給食交流等を通して、人と関わり、つながる楽しさを感じることができる活動を重視していく。 ・保護者と連携した基本的な生活習慣の定着と「あいさつ運動・あいさつ通り」の取組の実施。	・児童は挨拶ができ、基本的な生活習慣を身に付け、友だちと仲良く生活しているか。				
		・健やかな身体の育成	・運動が苦手な児童に対する指導や支援を充実させ、運動に親しみ、運動好きな児童を増やしていく。 ・校長講話や朝会等を活用して、健康に関する指導や啓発を継続的に行う。	・学校評価アンケート「進んで、外で遊んだり、運動したりしている（児童）」の評価向上。				
3	- P T Aや育成会の行事に楽しく参加している児童が増えている点は、この地域のよさとして更に交流を推進したい。 - あいさつ運動推進にあたっては、児童のアイデアも取り入れていけるとよい。 - あいさつ運動は、家庭との連携が不可欠であり、あいさつ通りの取組を広く周知していく。	・コミュニティ・スクールの実施	・学校運営協議会や協働活動等に児童が参画する場をつくる。 ・児童と地域の交流を深める機会を重視し、相互に顔見知りの関係を築く。 ・「あいさつ通り」の取組の周知と拡大を図り、協働活動へつないでいく。	・子どもの元気と笑顔を第一に、教職員、家庭、地域が協働しながら、「ふれあう、つながる教育活動」を展開しているか。				
		・P T Aや育成会等の地域との連携	・防犯、学習支援、除草等のボランティアの方と児童の交流を推進していく。 ・教職員や保護者が地域の歩みや文化等を知る機会、研修の場をつくる。 ・学校や地域への愛着を高める開校45周年の記念企画を実施する。	・学校評価アンケート「地域の人といっしょに活動するのは楽しい（児童）」の評価向上。				
4	- 衛生、安全管理と教育活動の円滑な実施の視点で、見通しをもって、環境整備を行う。 - 学校緑化等の推進にあたっては、教職員の負担にならないよう工夫できるとよい。 - 校内のトラブルや事故等に対しては、初期対応を丁寧に行うとともに、ヒヤリハット事例を共有して事故の未然防止、再発防止に努める。 - 浸水対策工事や放課後施設利用等の予定に対しては、教育活動や教職員の業務に支障が出ないよう留意したい。	・教育活動充実のための環境整備	・豊かな心を育む持続可能な学校緑化や飼育栽培活動を進める。 ・活動前の準備運動、事前指導、予備実験等を徹底する。 ・来校者の動線管理等の防犯対策、非常時を想定した訓練等を継続していく。	・衛生、安全管理、安全教育が徹底され、児童の心理的安全性も確保されているか。				
		・学校施設の安全管理	・校地内巡視により施設・設備の安全点検を定期的に行う。 ・けがの防止や食物アレルギー対応等は複数のチェック体制で確実に行う。	・危険箇所・要修繕箇所等を一覧にし、優先順位を決めて着実に対応できているか。 ・医療等を要した怪我の発生件数削減。				
5	- デジタル社会への対応も必要ではあるが、リアルな体験や書く活動等も大事にしていきたい。 - 職員の業務量管理、健康確保措置に関連して空き時間や放課後の時間を確保できるとよい。 - 職員が一人で悩むようなことが無いよう風通しのよい職場環境づくりに努めていく。	・教職員研修の充実	・校長、教頭による全教員の授業参観、指導、教員相互の実践交流の実施。	・教職員がデジタルとリアルの調和を意識して学習指導を工夫しているか。				
		・働き方改革や業務の効率化	・ノー会議デーの設定。 ・職員間の組織的な相互サポートを校内で共通理解していく。	・教職員ストレスチェック集団分析による健康リスクの減少。				